

学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2026年度入学者向けの科目一覧です。受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。
 ※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名（〇は単位数）	配当回生／形式／開講区分	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
法学部	社会に生きる法②	1回生／講義／専門科目（キャリア形成科目）	漠然と「大学生は学ぶものだ」という前提で、単に法学部だから社会の中の個別の「法」の運用を知るのではなく、日々社会における様々な問題に対して、どう直面し、どう解決しようとしているのか、ゲストスピーカーの「知識と経験に基づく批判的思考・論理的思考の実際」を知る。そのことから、今後、法学部での学生生活における学びを経た自分が、あらゆる現場で「社会を形作る」ことにどう寄与できるのかを垣間見て、今後の自分なりの法学部における学び方を、具体的かつ自律的に構想する。
法学部	法曹フィールドワーク演習②	2回生（司法特修）／演習／専門科目（司法特修独自科目）	将来、法曹（裁判官・検察官・弁護士）となることを志す受講者向けの講座である。受講者が法曹三者あるいは当事者本人・証人等の役割を担当して模擬裁判を行うことを通じて、法律と裁判制度の社会的な存在意義を感じ、訴訟実務の基本を理解することを目的とする。受講生は、各30名の2クラスに分け、民事・刑事の模擬裁判を行う。
法学部	法務実習②	2回生／実習／専門科目（法学部独自実習科目）	2回生後期に法律事務所・司法書士事務所などで実習を行う法学部独自のインターンシップ科目である。弁護士・司法書士等の法律専門職の仕事現場を見聞することを通じて、法と現実との関わりや司法の現場が抱えている問題を学び、将来の進路の動機付けを図る。48時間以上の実習、事前・事後講義、実習レポートを提出することにより単位認定される。
法学部	公務行政セミナー②	2回生（公務行政特修）／講義／専門科目（公務行政特修独自科目）	公務行政特修のキャリア形成科目である。大学院公務研究科との連携をはかり、官公庁勤務の人々を招き実務現場の話や公務員の職務と活動に関する、政治行政学・法学両面からの基本的な理解を獲得し、公務行政特修の学生の進路目標に対する動機付けを強化することをめざす。
法学部	公共政策実習②	2回生以上（公務行政特修）／実習／専門科目（法学部独自実習科目）	地方自治体や公共機関などの公務の現場で、実際の仕事を体験することを通じて、現場が抱えている問題や、学問と行政・公共機関との関わりを学び、その後の学習や進路への目的意識の深化や進路開拓への発展を図る、法学部独自のインターンシップ科目である。40時間以上の実習、事前・事後講義、実習報告会への参加、公共政策実習レポートを提出することにより単位認定される。
産業社会学部	キャリア形成特殊講義②（キャリア探偵団）	2回生以上／演習／発展（キャリア形成科目）	さまざまな業種・職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とする。企業等からの課題をベースとした産学連携型の課題解決学習（project based learning）に準じた授業となる。具体的には、①外部講師による講演等によりキャリアを考えるきっかけを与える（導入）。②企業から出された課題に対して少人数のグループごとに解答を話し出し、プレゼンテーションするPBL（課題解決型）作業を行う。
産業社会学部	キャリア形成特殊講義②（若者支援（ユースサービス）の場での働き方を学ぶ）	2回生以上／演習／発展（キャリア形成科目）	学校とは違う、若者の教育・支援と関わる営みについて学びます。この授業では、若者と関わる現場で働く多様なスタッフを招いてお話を聞き、実践現場を訪問しながら、若者の成長支援という「新しい仕事」のあり方を学ぶとともに、そのための基盤となるユースワーク（ユースサービス）や「若者学」について受講の皆さんとともに考えていきます。
国際関係学部	キャリア・ワークショップ（ビジネス・メディア）②	2回生以上／講義／キャリア教育科目（日本語開講）	民間企業への就職を志望する学生向けの科目。実践的な就職活動・キャリア形成の方法を知るだけでなく、「働くこと」の意味について理解を深め、企業とマスメディアで働く際のキャリア・パスについてその概要を理解する。授業担当者による講義だけでなく、様々な企業からゲストスピーカーを招聘し、「働くこと」に関する学生の理解を促す。若者がおかれている社会状況、企業や労働者が直面している課題などについて学び、学生が卒業後の人生について深く考えることを支援する。
国際関係学部	国際公務セミナー②	2回生以上／演習／キャリア教育科目（日本語開講）	国際公務コース生のみ履修可能な科目。国際公務コース生は2回生春学期に全員受講する。日本の公務員、国際機関の職員を複数名、ゲストスピーカーとして招聘し、自身の進路を考察するとともに進路に進むために必要な力や経験について学ぶ。国際公務セミナー受講後の2回生秋学期から、国家公務員・地方公務員を志望するか、あるいは国際機関を志望するか、学生自身が選択することを想定し、両分野の進路選択に資する情報を提供する。 ※国際公務コース生の募集は1回生秋学期に募集ガイダンスを行います。
国際関係学部	国際公務研究 A ②	2回生以上／演習／キャリア教育科目（日本語開講）	国際公務コース生のみ履修可能な科目。国際公務コース生のうち希望者は2回生秋学期に受講する。日本の国家公務員・地方公務員を志望する学生向けの科目。日本の行政システムや国際機関のガバナンス、国際および日本の国家・地方の行政における現状と課題について学ぶ。 ※国際公務コース生の募集は1回生秋学期に募集ガイダンスを行います。
国際関係学部	国際公務研究 B ②	3回生以上／演習／キャリア教育科目（日本語開講）	日本の国家公務員・地方公務員を志望する学生向けの科目。国際公務研究Aに引き続き、国家公務員を目指す学生へ専門的な知識や情報を提示するとともに、キャリア・パスに必要な実践的で具体的なノウハウを教授する。この科目を通じて、国際および日本の国家・地方の行政における現状と課題について理解する。 2回生進級時に国際公務コースを選択しなかった学生が、2回生以降に公務員を志した際に3回生からこの科目を受講できるよう、国際公務コース生限定の科目とはしない。
国際関係学部	Professional Workshop ②	2回生以上／講義／キャリア教育科目（英語開講）	国連職員など国際機関を志望する学生向けの英語開講科目。国際機関で活躍する専門家を複数名ゲストスピーカーとして招聘し、自身の進路を考察するとともに希望する進路に進むために必要な力や経験について学ぶ。
国際関係学部	Special Lecture ② The Bangkok International Organization Training Program in Thailand	1回生以上／演習／キャリア教育科目（英語開講）	国連職員など国際機関を志望する学生向けの英語開講科目。夏期休暇中の1週間、バンコクにある国際機関を複数訪問。現地で働く職員による講義やインタビューなど、フィールドワークを通じて国際機関の現実やキャリア形成について学ぶ。
国際関係学部	Internship ②	2回生以上／演習／キャリア教育科目（英語開講）	英語開講科目。日本国内で英語での就業体験（インターンシップ）を行う科目。インターンシップ先は年度によって異なる。インターンシップが始まる数か月前に受講生募集ガイダンスを実施します。

学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2026年度入学者向けの科目一覧です。受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。
 ※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名（〇は単位数）	配当回生／形式／開講区分	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
文学部	リテラシー入門②	1回生／演習／専門科目（人文学共通科目）	授業は、ライティングスキル・インフォメーションスキル・キャリアスキル・チューデントスキルの4要素から成り立っています。リテラシーとはもともと文字を読み書きする能力のことでしたが、今では様々な情報を理解して、自分とまわりの人々、つまり社会とのコミュニケーションに役立てる能力を幅広く指す言葉になったものです。学域の教員や先輩からのキャリア講義を1コマ開講し、文学部の学びとキャリア形成との関わりについて学びます。
文学部	人文学特別研修②	2回生以上／実習／専門科目（人文学共通科目）	「大学での学びと関連のあるプログラムの開発」、「単なる就業体験ではなくインターンシップを通じて何かを創り上げ達成感を得ることができるプログラムの開発」という2つの特色を持った文学部独自のインターンシップ科目。文学部で募集するインターンシップは、文学部の教学内容と密接に関連したものが中心となり、専攻での学びの成果を活かしながら、実社会での職業体験に触れ、インターンシップ体験を通じて、単なる就職活動のひとつとしてではなく、文学部生として自身の学びのキャリアについて考える機会とすることを目的としています。
デザイン・アート学部	デザイン学1	1回生/演習/専門	本科目では、「デザイン学1-6」全体のスコープ（視野）とパースペクティブ（視角）を理解することに重点を置く。そのために、本学部でのデザイン・アートの学びを「デザイン」「アート」「サイエンス」「ヒューマニティーズ」の4つの研究視角から多角的に捉え、それぞれがどのようにデザイン・アートの学びや研究に貢献し得るのか、理論的・社会実践的な観点から検討する。この過程を通じて、今後の学びに対する明確な指針を形成することを目指す。 テーマ1（デザイン） デザインに関わる研究の視角から、本学部のデザイン・アートの学びや研究の発展可能性がどのように捉えられるかについて、理論的・社会実践的な観点から検討を行う。 テーマ2（アート） アートに関わる研究の視角から、本学部のデザイン・アートの学びや研究の発展可能性がどのように捉えられるかについて、理論的・社会実践的な観点から検討を行う。 テーマ3（サイエンス） サイエンスに関わる研究の視角から、本学部のデザイン・アートの学びや研究の発展可能性がどのように捉えられるかについて、理論的・社会実践的な観点から検討を行う。 テーマ4（ヒューマニティーズ） ヒューマニティーズに関わる研究の視角から、本学部のデザイン・アートの学びや研究の発展可能性がどのように捉えられるかについて、理論的・社会実践的な観点から検討を行う。
デザイン・アート学部	デザイン学2	1回生/演習/専門	本科目では、デザイン学1-6全体のスコープ（視野）とパースペクティブ（視角）をより深く掘り下げるために、「デザイン学1」とは異なるパースペクティブを提示する。そこで本科目では、「意味」「情報」「環境」「社会」という本学部でのデザイン・アートの学びを構成する4つの基本分野において、それぞれどのようにデザイン・アートの学びや研究を推進できるかについて理論的・実践的な探究を行う。この探究を通じて、学生個人の今後の具体的な学びや活動指針を得ることを目指す。 テーマ1（意味分野） 意味分野において、どのようにデザイン・アートの学びや研究を推進できるかについて理論的・社会実践的な観点から検討を行う。 テーマ2（情報分野） 情報分野において、どのようにデザイン・アートの学びや研究を推進できるかについて理論的・社会実践的な観点から検討を行う。 テーマ3（環境分野） 環境分野において、どのようにデザイン・アートの学びや研究を推進できるかについて理論的・社会実践的な観点から検討を行う。 テーマ4（社会分野） 社会分野において、どのようにデザイン・アートの学びや研究を推進できるかについて理論的・社会実践的な観点から検討を行う。
経済学部	キャリアデザイン②	2回生／講義／専門科目（学部共通科目）	滋賀県中小企業家同友会並びに、草津市、大津市の協力を得て、地域経済のけん引力であり、社会の主役である中小企業代表者の講演を通じて、多様で幅広い働き場、地域社会・企業の課題解決に貢献する意義、企業や社会から求められる人材像などについて学び、大学における勉学やキャリア等の設計、働くこと、働く上での基礎知識をえる。
経済学部	海外インターンシッププログラム②	1回生以上／講義／専門科目（学部共通科目）	経済学部での専門的な学びを、海外での体験学習を通じて検証する。日ごろ学んでいる専門的学びや学問（あるいは興味関心をもっている専門学問領域）の社会的な役割や意義を理解する。学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証することで、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。
経済学部	簿記入門Ⅰ・Ⅱ②	1回生以上／講義／専門科目（学部共通科目）	簿記入門Ⅰにおいては、金銭の流れ、投資や資産の考え方を中心に、簿記の仕組みの基本を学習し、日商簿記検定3級合格を、簿記入門Ⅱにおいては財務諸表の理解、作成するための簿記の仕組みを学習し、日商簿記検定2級合格の力量を身に付けることを目的とする。経済学部生のキャリア形成の中でも、高度の専門性を求められる分野に関して、「財務・会計プログラム」、「公務・行政プログラム」を設置しており、これらプログラムでの学びにつながる科目である。
経済学部	実践経済演習Ⅰ②	1回生以上／演習／専門科目（学部共通科目）	3クラスのみをキャリアデザイン（特に国際キャリア）に焦点をあてて、幅広い講師を招聘しながらグループワークを行い、自らのキャリアを考える機会を提供する。
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学セミナー②	2回生／講義／専門科目 （プロフェッショナルキャリア形成科目）	この科目では、大学での学びをいかに自身のキャリア形成に繋げるのか、また習得した知識・スキル・経験を実社会でどのように適用・応用することができるのかを考えるとともに、進路や職業選択に対する当事者意識を醸成・助長するための科目である。同時に、培った知識を活かし、スポーツ健康科学の価値や可能性を、自分自身だけでなく、他者や現在、またこれからかかわる組織の魅力につなげるとともに、社会の発展に役立てようとする力量を養う。

学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2026年度入学者向けの科目一覧です。受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。
 ※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名（○は単位数）	配当回生／形式／開講区分	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
スポーツ健康科学部	サービスマーケティング（専門）②	2回生以上／実習／専門科目 （プロフェッショナルキャリア形成科目）	この科目は、基礎科目、専門科目で培った知識やスキルに加え、自らの経験を活かし、実社会に即した課題と向き合いながら、課題に内在する問題の発見や問題の解決方法などを、主体的かつ実践的に学習する科目である。とりわけ、サービスマーケティングでは、地域でのボランティア活動などを通じて、これまで習得した知識やスキルが実際の社会でどのように役立つのか、また社会で必要とされている知識とスキルに対する理解を深め、理論と実践の往還を図ることをねらいとする。同時に、社会的課題の解決に向けて、多様な人々と協働しながら、培った専門的知識とスキルを複眼的かつ相補的に問題を解決するための実践的な能力を身につける。さらに、この学習過程で身につけた思考体系や現場を見つめる眼差しを、未来を拓くためのより深い探究心につなげる。
スポーツ健康科学部	インターンシップ（国内） インターンシップ（海外）②	2回生以上／実習／専門科目 （プロフェッショナルキャリア形成科目）	インターンシップ（国内・国外）は、基礎科目、専門科目で培った知識やスキルに加え、自らの経験を活かし、実社会に即した課題と向き合いながら、課題に内在する問題の発見や問題の解決方法などを、主体的かつ実践的に学習する科目である。とりわけ、インターンシップでは、企業での就業体験などを通じて、これまで習得した知識やスキルが実際の社会でどのように役立つのか、また社会で必要とされている知識とスキルに対する理解を深め、理論と実践の往還を図ることをねらいとする。同時に、社会的課題の解決に向けて、多様な人々と協働しながら、培った専門的知識とスキルを複眼的かつ相補的に問題を解決するための実践的な能力を身につける。さらに、この学習過程で身につけた思考体系や現場を見つめる眼差しを、未来を拓くためのより深い探究心につなげる。
理工学部	特殊講義（基礎専門）Ⅰ（技術者のキャリア）②	1回生以上／講義／基礎専門科目	理工系学生の進路とされるさまざまな業種、職種に携わる講師によるリレー形式の講義。企業等で働かれているゲスト講師から現在の仕事と経歴、学生時代に打ち込んだことなどを紹介いただき、企業での最前線の技術開発の動向や、技術者に求められている資質、採用時に学生に期待されているもの、などについても講義していただく。 これらを通じて、学生自身が職業感や職業適性について考え、進路、就職について意志決定するための手がかりを得ることを目的とする
薬学部薬学科	薬学基礎演習A,B,C①	1回生／演習／専門科目（薬学導入科目）	人間関係や社会、あるいは医療現場におけるコミュニケーションの重要性を認識させることを目的とした授業を行った後に、早期体験学習を実施する。薬剤師の主要な活躍分野として病院、薬局を訪問して薬剤師の業務を直に見聞し、医療における薬剤師の役割の重要性を認識することで、医療人としての意識を高める。また、製薬企業の研究所を訪問して、薬ができるまでのプロセスについての知識を得る。各所において現場の一線で活躍されている方のお話を伺い、薬学部生としての意識を高める。さらに、福祉や介護に関する講義を通じて、思いやりの心や、コミュニケーションの重要性を認識する。
薬学部薬学科	薬学キャリア演習①②	2回生／演習／基礎科目（夏季集中）	薬学キャリア演習では、立命館大学と協定を結んだ企業等での実務に準じた就業体験を通じて、具体的な業務内容や企業風土、仕事のやりがいなどを体感し、自らのキャリア選択の視座を高めることに加え、大学での学びを実社会でどう活かしていくかを考える。事前学修では、訪問先企業についての情報を集め、演習の目標を独自に設定する。事後学修では、実務の体験から得られた学びをふり返り、成果報告とグループディスカッションを行う。これらの過程を通じて、学生はキャリア意識を醸成させていく。
薬学部薬学科	医療薬学実習A②	4回生／実習／専門科目（演習/実習）	薬剤師の基本的業務である調剤を中心に関連した薬剤師実務全般を実習する。医療チームにおける薬剤師の役割について学習し、薬剤師の臨床業務について理解する。調剤および調剤薬監査に続き、注射剤・輸液の調剤に関連してTPN等の無菌調製や院内製剤などについて学び、加えて抗がん剤の取扱い全般について実習する。次に、治療薬物モニタリング（TDM）における薬物血中濃度測定と処方設計提案、TDM解析ソフトを用いた投与計画の作成などTDMの実践について実習する。次に、処方設計、処方オーダリングを行い処方せん全般について学習し、一包化調剤とレセプトおよび医薬品情報の情報源について学習する。続いて、能動的および受動的医薬品情報提供について実習する。次に、毒薬・劇薬、麻薬・抗精神薬等の管理について学び、医薬品全般の管理についても理解を深める。さらに、医療全体としての安全管理についても学習する。
薬学部薬学科	医療薬学実習B②	4回生／実習／専門科目（演習/実習）	医療現場の様々な場面において薬剤師は活躍している。これまでに学んできた薬物に関する知識（薬理作用、副作用、血中動態、臨床適用など）は非常に重要である。しかし実際の医療においては、新たに人とのコミュニケーションという大切な要素が加わり、人とのコミュニケーションを通して薬物に関する知識を生かしていくことになる。医療薬学実習2では、薬剤師になってから実際に経験することになる医療の5つの場面を設定し、小グループ毎に症例に基づいて学習する。薬物治療の実際を学ぶのと同様に、人とのコミュニケーションの仕方をロールプレーも交えて実習する。さらに基本的な身体所見がとれる様なるために、シミュレーションロボット（フィジコ、フィジフ）や聴診器などの医療器具を使った実習を行う。
薬学部薬学科	実務前実習④	4回生／実習／専門科目（演習/実習）	学外実務実習（病院・薬局実習）を行う前に、薬学部内において模擬実習を行い、薬剤師業務全般についての知識、技能及び態度について最低限必要な部分を修得できるようにする。加えて、薬剤師の社会的使命、医療全般の理解と認識、医療現場での心構え・態度、守秘義務等についても理解させる。さらにOSCEにも関連する患者応対、薬剤の調製、調剤監査、無菌操作、情報の提供などについて重点的に実習する。
薬学部薬学科	卒業研究A	3回生/演習/専門科目（卒業研究）	卒業研究内容の紹介を受けて、卒業研究室を決定する。その後、卒業研究入門として、配属先の研究室での活動を始める。特定のテーマについて関連する専門的知識の修得や、研究テーマに関連した事前調査ができる能力を養うとともに、研究活動に対する基本的態度、研究活動の進め方、研究者としての倫理などについても学ぶ。 途中、複数回にわたって薬学科では多職種交流の、創薬科学科ではキャリア展望に関する講演会、意見交換会を実施する。

学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2026年度入学者向けの科目一覧です。受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。
 ※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名（○は単位数）	担当回生／形式／開講区分	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
薬学部薬学科	病院実務実習⑩ 薬局実務実習	5回生／実習／専門科目（演習/実習）	薬剤師は「医療の担い手」と位置付けられており、薬の専門家として社会に貢献することが期待されています。そのためには医薬品の管理から薬物治療に至るまでの幅広い知識を身に付けた質の高い薬剤師の養成が必要となります。薬学教育6年制では、その第一段階として医療現場における参加型実務実習が義務付けられており、薬剤師としての業務を遂行するための基本的な知識・技能・態度を習得するだけでなく、生命尊重の倫理観を養うことが要求されています。 病院実務実習は5回生時に11週間（55日間）履修することとし、（1）病院調剤を実践する（2）医薬品を動かす・確保する（3）情報を正しく使う（4）ベッドサイドで学ぶ（5）薬剤を作る・調べる（6）医療人としての薬剤師などの（モデル）コアカリキュラムを行います。 薬局実務実習も同様に11週間（55日間）履修することとし、（1）薬局アイテムと管理（2）情報のアクセスと活用（3）薬局調剤を実践する（4）薬局カウンターで学ぶ（5）地域で活躍する薬剤師（6）薬局業務を総合的に学ぶを経験します。
薬学部創薬科学科	創薬科学基礎演習①	1回生／演習／専門科目（薬学導入科目）	人間関係や社会におけるコミュニケーションの重要性を認識することを目的とした授業を行った後に、創薬の意義や問題になっていること、医療全般に関する導入教育を行う。また、テーマ毎に小グループに分かれ、調査・討議を行い、発表を行う。
薬学部創薬科学科	薬学キャリア演習①②	2回生／演習／基礎科目（夏季集中）	薬学キャリア演習では、立命館大学と協定を結んだ企業等での実務に準じた就業体験を通じて、具体的な業務内容や企業風土、仕事のやりがいなどを体感し、自らのキャリア選択の視座を高めることに加え、大学での学びを実社会でどう活かしていくかを考える。事前学修では、訪問先企業についての情報を集め、演習の目標を独自に設定する。事後学修では、実務の体験から得られた学びをふり返り、成果報告とグループディスカッションを行う。これらの過程を通じて、学生はキャリア意識を醸成させていく。
薬学部創薬科学科	卒業研究A	3回生/演習/専門科目（卒業研究）	卒業研究内容の紹介を受けて、卒業研究室を決定する。その後、卒業研究入門として、配属先の研究室での活動を始める。特定のテーマについて関連する専門的知識の修得や、研究テーマに関連した事前調査ができる能力を養うとともに、研究活動に対する基本的態度、研究活動の進め方、研究者としての倫理などについても学ぶ。 途中、複数回にわたって薬学科では多職種交流の、創薬科学科ではキャリア展望に関する講演会、意見交換会を実施する。
食マネジメント学部	2025年度以前入学生：食科学入門 2026年度以降入学生：食科学探求Ⅰ②	2025年度以前入学生：1回生／講義／フードマネジメント基幹科目 2026年度以降入学生：1回生/講義/基盤科目 Ⅱ	2025年度以前入学生：食科学の体系を理解するための入門科目です。本科目は、食科学の基礎的な知識を習得するために、経済・経営の知識とフードカルチャー科目やフードテクノロジー科目の知識との結びつきを理解することを目的としています。加えて、本科目の受講を通じて、本学部にふさわしいキャリア形成の基礎能力を身につけましょう。 2026年度以降入学生：本講義では、学問分野の境界を越えた最新の研究について学び、経済・経営の知識とフードカルチャー科目やフードテクノロジー科目の知識を結びつけ、食の問題を主体的に分析・考察する能力を養います。これを通じて、複数分野の知識や方法を駆使した、食の学際的な分析や考察の方法を理解し、食マネジメント学部にあふさわしい高度マネジメント能力の基礎を身につけましょう。
食マネジメント学部	2025年度以前入学生：食科学概論 2026年度以降入学生：食科学探求Ⅱ②	2025年度以前入学生：1回生／講義／フードマネジメント基幹科目 2026年度以降入学生：1回生/講義/基盤科目 Ⅱ	2025年度以前入学生：食科学入門で食科学の体系を学んだ上で、更なる広がり理解するための科目です。本科目では、さまざまな学問分野における食を対象とした研究から得られた基礎知識を学びます。加えて、食科学入門で学んだ知見に基づいて、経済・経営の知識とフードカルチャー科目やフードテクノロジー科目の知識を結びつけ、食の問題を主体的に分析・考察します。これを通じて、食マネジメント学部にあふさわしい高度マネジメント能力の基礎を身につけましょう。 2026年度以降入学生：本講義では、学問分野の境界を越えた最新の研究について学び、経済・経営の知識とフードカルチャー科目やフードテクノロジー科目の知識を結びつけ、食の問題を主体的に分析・考察する能力を養います。これを通じて、複数分野の知識や方法を駆使した、食の学際的な分析や考察の方法を理解し、食マネジメント学部にあふさわしい高度マネジメント能力の基礎を身につけましょう。
食マネジメント学部	総合講義（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）各科目②	2025年度以前入学生：Ⅰ：1回生以上、Ⅱ：2回生以上、Ⅲ：3回生以上／講義／総合科目 2026年度以降入学生：Ⅰ：1回生以上、Ⅱ：2回生以上、Ⅲ：3回生以上／講義／総合講義	2025年度以前入学生：総合科目は、学部の学びと現実の社会課題を結びつける科目群です。①フードマネジメント、フードカルチャー、フードテクノロジーの3分野の知識を関連付けて理解し、②食に関する社会課題を知り、学部の学びと関連付けて取り組む意欲を育て、③食に関するキャリアを知り、自身のキャリアを考えることを目的としています。 2026年度以降入学生：総合講義は、3領域の学びを関連付けて理解する力を養うために、食の現場や社会での課題を用いて学ぶ科目群です。
食マネジメント学部	ガストロノミックスタディプロジェクト（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）各科目②	2025年度以前入学生：Ⅰ：2回生以上、Ⅱ・Ⅲ：3回生以上／演習／小集団科目 2026年度以降入学生：Ⅰ：2回生以上、Ⅱ・Ⅲ：3回生以上／演習／Ⅰ：初等PBL科目、Ⅱ・Ⅲ：専門PBL科目	社会の課題を見出し、それを解決するための方法を選択し、実際に解決するための実践力を身につける科目です。企業や団体、自治体など食の現場と連携し、PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）の手法を用いて、課題解決型の学習を行います。学部で学んだ知識を、実践することでさらに深く理解し、自身のキャリアについても考えることができます。ガストロノミックスタディプロジェクトⅠ（2回生以上）、ガストロノミックスタディプロジェクトⅡ（3回生以上）、ガストロノミックスタディプロジェクトⅢ（3回生以上）の3つの科目があり、テーマによってクラスが分かれます。
経営学部	テクニカルビジット②	2回生以上／講義・現地実習／専門科目	経営学に関わる多様なトピックを扱いつつも、具体的な対象を特定し、企業・工場等での実習を通じて講義で習得してきた経営学に関わる理論や知識が経営の現場でどのように実践されているかを学ぶ。
経営学部	コース特殊講義②	2回生以上・3回生以上／講義／専門科目	銀行、損害保険会社、証券会社などの金融機関から講師を招聘し、会計とファイナンスコースの特殊講義として開講している（他コース学生も受講可能）。同様に、戦略とマーケティングコースの特殊講義を夏期集中講義として開講している（他コース学生の履修は不可）。いずれも、実務的な観点からそれぞれのテーマについて学びを深めることを目標とする。

学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2026年度入学者向けの科目一覧です。受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。
 ※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名（○は単位数）	担当回生／形式／開講区分	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
経営学部	ビジネス・インターンシップ②	3回生以上／講義・実習／専門科目	本科目は、関西圏他のベンチャー企業等においてインターンシップを行うことにより、経営学部での学びを更に究めることを目的とする。 学部の専門の学びを、実社会での就業体験を通じて再検証し、就業体験で得た学びや気づきをその後の専門の学びへ繋げることを到達目標とする。
総合心理学部	社会の中の心理学②	1回生以上／講義／総合心理学基礎科目	心理学と社会の関係について学ぶ。授業では、テキストに沿って、心理学史上著名な心理学者2人を毎回とりあげその学説や社会との関係について理解を深める。これが講義の核心となる。また、ほぼ毎回ゲストが登場してスピーチを行う。受講生は、ゲストのスピーチを聞くことにより、自分自身のキャリア形成（大学での過ごし方、職業選択、大学院進学、留学等）について考えることが求められる。 ゲストは何らかの形で心理学に関係をもつ方々であり、（1）立命館心理出身の社会人、（2）ものづくり企業、東日本大震災被災者、難病患者の方、弁護士など、心理学に期待を持つ外部の方々、（3）コミュニケーション研究、キャリア研究、留学研究の専門家、（4）留学やボランティアなどの経験を語る3、4回生（文学部・総合心理学部）、（5）総合心理学部の教員、である。
総合心理学部	国内フィールドスタディ②	2回生以上／実習・講義／専門科目	インターンシップ（就業体験）やボランティア活動を通して、社会的活動と心理学の関係についての気づきと展望を深める講義です。心理学が社会での有用性を高めるなか、心理学的知見を活用することで問題解決が可能なフィールドも拡大しつつあります。このとき従来の仮説検証型の心理学的方法論だけでは身近な日常的活動に切り込むことは困難であり、また有用で豊かな知見を現場に返すことも難しい場合があります。そこで本講義では様々な社会的活動を行うなかで、現場での関心を心理学的フィールドワークの学びへと意味づけ直すことを通じて、実践知を生み出すためのきっかけとその枠組みを学びます。 基本的にはインターンシップ等の現場では、活動先の業務に従事することになります。まずは就業体験やボランティア体験自体を自身のキャリアの中に位置づけることが最も重要です。同時に、総合心理学部での「自らの知識や経験」をどのように現場に活かすことができるのかを考えることもキャリア形成にとって重要になります。
総合心理学部	総合心理学特殊講義Ⅱ②	2回生以上／講義／アドバンス科目	【目的】 心理学の専門知識とスキルを生かしてどのような人生を生きていきたいか、また、一人ひとりが自分らしい人生を送ることができる社会を実現するにはどうしたら良いのかを考え、広い視野で自身と社会の将来について熟慮し、議論する場を提供する。 【概要】 ・教員によるキャリア論の講義 ・ゲストスピーカーによる特別講演 ・自ら考え発言する機会の設定
総合心理学部	キャリア形成論②	3回生以上／講義／専門科目	この授業では、キャリアについて学ぶ。授業全体としては、職業キャリア、あるいは組織内キャリアを中心に。加えて、大学院進学もカバーする。講義全体を通して、人生を通じて経験と学びを得るライフキャリアにも着目して、自らのキャリアについて考える。
映像学部	クリエイティブリーダーシップセミナー②	2回生／講義／専門科目（キャリア形成科目）	映画監督、演出家、脚本家、ゲームデザイナー、グラフィックデザイナー、コピーライター、あるいは、美術分野や放送分野などリニア、インタラクティブを含む映像関連分野で活躍しているクリエイター、並びに同産業で活躍しているプロデューサーや経営者などを招聘したゲストレクチャーと、キャリア・マネジメント関連講義で構成する。ゲストレクチャーについては、映像業界の第一線で活躍するベテラン（客員教員、訪問教員およびそれに準ずる講師）を講師としたリーダーシップ・セミナーと、映像業界でキャリアを積み始めて5年～10年程度の若手社会人または人事担当者によるキャリア創生・セミナーという二階層の講義構成となる。
映像学部	学外映像研修②、④	2回生以上／実習／専門科目（キャリア形成科目）	映像学部教学と関連性の高い企業・団体でのインターンシップ研修を通して、映画・映像とその文化、技術の創造に関する、現場での実践知、技量、主体性を体得する。受入機関における実務研修や調査では、専門領域についての視野や知識を広げるとともに、具体的な仕事のイメージを持ち、自己の職業適性や将来設計等について深く考えることが求められる。
映像学部	社会連携プログラム②	2回生以上／講義／専門科目（キャリア形成科目）	学外機関と連携し、具体的な目標と予算に基づいて企画を実行することで、調査研究力、実践力ならびにマネジメント能力を醸成する。2022年度：「京都国際マンガアニメフェア」「京都映画企画市（ヒストリカ国際映画祭）」「京都伝統産業ミュージアム」「京都市交通局」「株式会社松竹撮影所」「BitSummit」など
映像学部	特殊講義（専門Ⅰ～ⅩⅤ）②	1回生以上／講義または実習、演習／専門科目（キャリア形成科目）	特殊講義として毎年テーマを変えて複数クラス開講される。
情報理工学部	特殊講義（共通専門）②	1回生以上／演習／専門科目（共通専門科目）	本科目では、情報分野における幅広い研究領域から、時事的なテーマや先端的なテーマを取り上げ、情報理工学を学ぶにあたっての確かな専門能力を養成する。情報分野に対する学生の関心を高めるために、大学教員だけでなく、情報科学および情報工学分野の専門家などをゲストスピーカーに招いて、最新技術の解説とともに問題発見や問題解決を主眼におく授業を展開する。
情報理工学部	特殊講義（共通専門）DX②	3回生以上／演習／専門科目（共通専門科目）	本科目では、情報分野における幅広い研究領域から、時事的なテーマや先端的なテーマとして特にDXを取り上げ、情報理工学を学ぶにあたっての確かな専門能力を養成する。情報分野に対する学生の関心を高めるために、大学教員だけでなく、情報科学および情報工学分野の専門家などをゲストスピーカーに招いて、最新技術の解説とともに問題発見や問題解決を主眼におく授業を展開する。
情報理工学部	特殊講義（グローバル・キャリア養成）②	1回生以上／演習／専門科目（共グローバル・キャリア養成科目）	本科目では、実践的な課題を設定して、その解決策を見つけることで、社会で活躍できる情報技術者として必要な基礎力を養成する。グループ学習などを通じて、論理的思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ファシリテーション力など、グループで活動する力を身につけることを主眼とした授業を展開する。

学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2026年度入学者向けの科目一覧です。受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。
 ※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名（○は単位数）	担当回生／形式／開講区分	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
情報理工学部	連携講座②	1回生・2回生／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	本科目は企業等から講師を招き、大学で学ぶ学問が社会の中でどのように応用されているかを理解することでIT社会に対する視野を広げる。同時に、産業界で活躍する技術者の生の声を聞くことで、キャリア形成への意識を高めることを目的とする。第一線で活躍するエンジニア、ベンチャー企業家、企業経験のある教員、キャリア専門家等の講師陣によるICT関連ビジネスに関する最先端のトピックスの講演の他、グループワークやディスカッションを通して受講生自ら自身の職業観について整理する機会とする。
情報理工学部	海外IT研修プログラム②～④	1～3回生／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	高い英語運用能力とグローバルな視点から多面的に物事を捉える能力は、国際的に活躍する技術者・研究者にとって必要不可欠な資質と言える。本科目では、事前・事後講義、英語圏大学での集中的な英語学習、IT関連企業訪問、他国からの留学生との交流やホームステイを通して、個々にあった英語運用能力の向上と柔軟な文化適応能力の養成を目指す。
情報理工学部	グローバルインターンシップ②	3回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	本科目は、学部専門科目で培った専門知識をいかしながら、日系IT企業や現地IT企業でインターンシップに取り組むことによって専門性を深めるとともに、卒業研究で必要な自主性や計画性を養う。また、実社会での就業体験を通じて、コミュニケーション能力、チームワーク力、異文化理解力などの社会人基礎力も養成する。さらに、現地での生活・安全管理等に関する事前研修と、研修成果を発表する事後研修を実施する。
情報理工学部	情報と職業②	1回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	21世紀に入り、経済や社会が大きく変化し、情報化・国際化が進んでいる。これに伴い職業に関する環境や考え方が変容している。コンピュータや通信技術の発達に伴う職業観や勤労観、倫理も同時に変化しつつある。本科目では、情報に関する職業人としての在り方、職業観や勤労観、倫理の視点と、情報化の進展に伴う職業の変革の視点の両者から情報と職業の関わりについて学ぶ。
情報理工学部	技術経営概論②	2回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	技術の発展が人間社会を豊かにしてきた。広い意味での技術を経営に如何に生かせば良いのか、また付加価値の高い経営に有効活用するにはどう対応したら良いのかなどを多面的に考え、技術経営の概要を創造的に深く理解する。各種産業に参画していく若人が、経営の広い範囲でリーダーシップを発揮できるように、技術経営の基本的な知識をより実践的に身に付けていく。
情報理工学部	技術経営特論②	2回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	企業が持続的に発展、成長するためには、企業を取り巻く環境に適応しつつ競争優位を獲得し、維持することが必須となる。本コースは技術経営の入門講座として、企業が競争優位を獲得・維持するために、技術を基盤とし技術開発とイノベーション創出を重視する企業が直面する幅広い戦略的課題を取り上げ、解説する。技術経営の幅広い基礎知識や戦略的にものごとをみる視点を学ぶ
情報理工学部	イノベーション論②	2回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	イノベーションは、顧客に今までにない価値をもたらす、新規需要を創出する。イノベーションは生活を一変するだけではなく、企業や経済が成長するために重要な役割を果たす。イノベーションの概要を把握、実践的に理解することを目的とする。各種産業に参画していく若人が、経営の広い範囲でリーダーシップを発揮できるように、イノベーションの基本的な知識をより実践的に身に付けていく。
情報理工学部	ファイナンス入門②	2回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	社会人必須のファイナンス知識を習得する。 技術系学生も社会人となれば事業計画、業績管理、経営の意思決定など多くの局面で、ファイナンスの知識が必要となる。よって、本講義において当該科目の基礎知識を習得することとする。
情報理工学部	情報技術実践1②	2回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	IT技術者として活躍するために、様々な職種で共通して必要とされる知識や関係するスキルを身につける。情報理工学部の共通専門科目で学ぶ内容を、体系付けられた知識・スキルとしての確に身につけることを目的とし、最終的には、専門性の高い情報処理技術者を目指す第1ステップと位置づけられる「基本情報技術者試験」への合格レベルを目指す。
情報理工学部	情報技術実践2②	2回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	情報理工学部の共通専門科目や学科専門科目で学ぶ内容を、体系付けられた知識・スキルとしての確に身につけることを目的とし、最終的には、高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立していることを問う「応用情報技術者試験」の合格レベルを目指す。
情報理工学部	情報技術実践3②	3回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	技術を事業化するために必要な最低限の知識とスキルを修得することを目的として、デザイン思考(Design Thinking)とシステムズ・エンジニアリング(Systems Engineering:SE)、経営管理学(Management of Business Administration: MBA)を組み合わせた講義を行う。
情報理工学部	ITを活用した業務改革入門②	3回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	現代の企業経営にとってITは不可欠な存在である。経営情報論に立脚し、ITを使う側のユーザー企業や産業社会、およびITを作る側のベンダー企業や情報サービス産業といった複眼的な視点から、ITを企業経営や業務改革に有効に活用するための様々な課題に接近する。多くの学生が就職する情報サービス産業の構造およびIT企業の現状についても議論する。通常の講義に加え、ケーススタディ、演習、学生による発表やゲスト講師の講演を交えて、理論と実践の融合を図ったインタラクティブな授業とする。
情報理工学部	ICT価値探求デザイン演習②	3回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	イノベーションは製品やサービスの開発・生産・流通にかかわる各プロセスにおいて起こされている。しかし、事業化されるまで、マネジメントを適切に行わないと失敗する可能性が高くなる。そこで、企業組織、ファイナンス、サプライチェーンの視点から、プロジェクトマネジメントの方法論を学習する。演習はグループ単位で実施され、プロジェクトマネジメントのツールを使って、商品開発から事業化されるまでに関するプロジェクトマネジメント課題のプレゼンテーションを行う。
情報理工学部	プロジェクトマネジメント基礎②	3回生以上／講義／専門科目（キャリア養成・グローバル科目）	本科目では、実践的な課題を設定して、その解決策を見つけることで、社会で活躍できる情報技術者として必要な基礎力を養成する。グループ学習などを通じて、論理的思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ファシリテーション力など、グループで活動する力を身につけることを主眼とした授業を展開する。

学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2026年度入学者向けの科目一覧です。受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。

※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名（○は単位数）	配当回生／形式／開講区分	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
グローバル教養学部	GLA 1001 - Career Design 1 ②	1回生以上／講義／Innovation Studies	このコースは、低回生（主に1～4セメスター目）が、将来の進路目標を立て、履修科目を選択し、学生生活を検討するためのものである。様々な理論や手法を用いて自分の興味や強み、能力を振り返ることで、キャリアの可能性を探り、その実現に必要な要件を模索する。日本および海外の求人市場について知り、学業と将来の希望との関係を学ぶ。このコースは、講義やチュートリアル、ワークショップ、企業とのコラボレーションなど、様々な教育方法で行われる。“Career Design 2” (GLA 2001) を履修する前に、このコースを履修することが望ましい。 このコースを修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. キャリアデザインの理論と方法を知り、応用する。 2. 自分の将来の進路目標を設定し、評価する。 3. 学業と将来の進路目標の関係を理解し、説明する。
グローバル教養学部	GLA 2001 - Career Design 2 ②	2回生以上／講義／Innovation Studies	このコースは、上回生（主に5～8セメスター目）が、卒業後の目標に向けた計画を立案するためのものである。グローバル教養学部の学びを振り返り、学んだスキルや知識をどう自分のキャリアに活かすかを考える。自己PRの方法や面接の準備、様々な業界へのアプローチやネットワークの作り方など、日本国内外での就職活動に必要なスキルや戦略を学ぶ。このコースは、講義やチュートリアル、ワークショップ、いろいろな分野で活躍するロールモデルとのディスカッションなど、様々な教育方法で行われる。このコースを履修する前に、“Career Design 1” (GLA 1001) を履修することが望ましい。 このコースを修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. グローバル教養学部の学びが、どのように将来のキャリアに活かされるかを理解する。 2. 卒業後の目標に向けた詳細な計画を作成し、実行する。 3. 就職活動のためのスキルと戦略を身につけ、実行する。 4. 多様なキャリアや働き方を理解する。
グローバル教養学部	GLA 1182 Internship 1 ①	1回生以上／実習／Innovation Studies	GLA 1182 - Internship 1 このコースでは、就業体験を通じて、将来のキャリアの可能性を探る。GLAでの教育で身に付けたスキルと知識を活用するインターンシップを、学生自身が調査して企画、実施する。それによって、実社会での経験を積み、自身の将来目標と学習目的を評価できるようになる。インターンシップについては事前に許可を得なければならず、インターンシップ修了後はその目的が達成されたことを証明する書類を提出しなければならない。成績評価基準と労働時間は、学部のインターンシップ担当教員によって決定される。 このコースを修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. リベラルアーツ教育と職場との関係性を説明する。 2. リベラルアーツ教育で得たスキルと知識を職場で活用する。 3. 就業体験を通じて、自らのキャリア目標と学習目的を評価する。
グローバル教養学部	GLA 1282 Internship 2 ②	1回生以上／実習／Innovation Studies	GLA 1282 - Internship 2 このコースでは、就業体験を通じて、将来のキャリアの可能性を探る。GLAでの教育で身に付けたスキルと知識を活用するインターンシップを、学生自身が調査して企画、実施する。それによって、実社会での経験を積み、自身の将来目標と学習目的を評価できるようになる。インターンシップについては事前に許可を得なければならず、インターンシップ修了後はその目的が達成されたことを証明する書類を提出しなければならない。成績評価基準と労働時間は、学部のインターンシップ担当教員によって決定される。 このコースを修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. リベラルアーツ教育と職場との関係性を説明する。 2. リベラルアーツ教育で得たスキルと知識を職場で活用する。 3. 就業体験を通じて、自らのキャリア目標と学習目的を評価する。
グローバル教養学部	GLA 1382 Internship 3 ③	1回生以上／実習／Innovation Studies	GLA 1382 - Internship 3 このコースでは、就業体験を通じて、将来のキャリアの可能性を探る。GLAでの教育で身に付けたスキルと知識を活用するインターンシップを、学生自身が調査して企画、実施する。それによって、実社会での経験を積み、自身の将来目標と学習目的を評価できるようになる。インターンシップについては事前に許可を得なければならず、インターンシップ修了後はその目的が達成されたことを証明する書類を提出しなければならない。成績評価基準と労働時間は、学部のインターンシップ担当教員によって決定される。 このコースを修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. リベラルアーツ教育と職場との関係性を説明する。 2. リベラルアーツ教育で得たスキルと知識を職場で活用する。 3. 就業体験を通じて、自らのキャリア目標と学習目的を評価する。